

1. 推進体制

以下のワーキンググループ（WG）を設け、具体的改善策を検討計画する。  
それを受け、学科FD会議で決議し、決まった事に対しては、全員で協力して行う。

◎責任者

- 1.1 教育改善推進WG（◎稲見・皆本）
- 1.2 カリキュラム・シラバス検討WG（◎皆本・稲見・尾西・平野）
- 1.3 情報通信教育推進WG（◎佐藤・井門・香川・横山）
- 1.4 教育目標達成度評価WG（◎伊月・大村）
- 1.5 内部・外部評価調査WG（◎皆本・馬淵・檀上）

2. 平成16年度実施計画

2.1 教育改善推進WG

各チームからの提案をまとめ、統括的に教育改善を進める。

- [1] 授業参観・公開授業・教員研修会などの計画実施
  - ・教員研修会には積極的に参加した。
  - ・公開授業は行った。また、必ず1名が参加し内容を学科に報告した。
  - ・新居浜川東中学校への授業参観も行った。
- [2] オフィスアワーの有効活用の検討
  - ・教員を2班に分け統一して行った。
  - ・学科として勉強する雰囲気作りと、縦のつながりを持たせることを目的に、教員室ではなく実験室等でまとめて指導を行った。
  - ・参加者を増やす工夫を行ったが不十分であった。
- [3] 低学年の指導（アドバイザー制度の活性化）
  - ・1.2年の演習科目において、電気基礎科目の指導を中心に行った。
  - ・隔週ではあるが、担当学生と接することができ有効であった。
  - ・勉強以外の相談なども積極的に行えるよう改善が必要である。
- [4] 学生の資格取得数を増やすための方策（ガイドブック作成など）
  - ・学生へ資料を配布した。
  - ・Web ページの新設、専用掲示板の設置などを行った。今後も充実していく予定である。
- [5] 編入学生個人指導を行う。
  - ・特別に時間割を組み補習を行ったが十分ではなかった。
- [6] 成績不振者のフォローの方法（補習などの実施）を考える
  - ・担任を中心にオフィスアワー参加を呼びかけたが、十分ではなかった。
- [7] その他学生の意識改革を図る方法を考える
  - ・卒業生が帰省するのを利用し、4年生に講和をお願いした。  
（大企業の社員とベンチャー企業の取締役）
  - ・5年生に自分の就職・進学体験を後輩に話してもらおう機会を作った。

2.2 カリキュラム・シラバス検討WG

- [1] コース制を踏まえてカリキュラム・シラバスの見直し
  - ・シラバスの検討を行ったが、不十分な点も残った。
  - ・JABEE対応を考え見直す必要も生じた。

- [2] 電気情報工学科・電子制御工学科とのカリキュラムの融合の検討
  - ・両学科の学生が選択できる科目を新設した。
  - ・共通する基礎科目（デジタル回路）の担当を共通化した。
  - ・専攻科のカリキュラムも含め、なおいっそうの見直しが必要である。
- [3] 実験内容の見直し、実習科目の新設
  - ・電気情報実習Bにおいて、ミニプロコンを加えるなど内容を充実した。
  - ・次年度に向けて3年生以降の実験実習テーマの見直しを行った。

### 2.3 情報通信教育推進WG

- [1] 情報系・通信系新設科目の具体的シラバスの検討
  - ・JABEE対応を考えねばならず、まだ不十分である。
- [2] 情報通信関係の実験・演習内容の検討
  - ・次年度に向けて3年生以降の実験実習テーマの見直しを行った際考慮した。
  - ・4年生以降の内容はまだ検討が必要である。

### 2.4 教育目標達成度評価WG

- [1] 教育目標達成度の具体的な評価方法の検討
- [2] 成績評価の妥当性の検討
  - ・自己点検書（JABEE）を作成することで十分に行えた。

### 2.5 内部・外部評価調査WG

- [1] 学校全体で行っている各アンケートを元に学科としての分析・評価
- [2] 学科独自の評価システムの検討
  - ・学校のアンケートに対応するだけで精一杯であった。
  - ・中学生・入学試験合格者に対しては独自のアンケートを行った。

## ○ 総括的な評価と課題

教育改善に関しては、ほぼ実施計画どおりのことは行うことができた。しかし、低学年での留年者・進路変更者がでるなど継続して努力していかなければならない課題も多い。カリキュラム・シラバスの検討に関しては、専攻科のことも含め電子制御工学科との融合化・良い意味での差別化など課題が残っている。次年度は推進体制をJABEE対応も踏まえ電子制御工学科と一体化した組織を計画中である。

また、電気情報工学科の学年進行が進むので、情報通信科目のシラバスの検討もさらに詳細を検討していかなければならない。